『中外日報』平成７年２月25日付（25271号）16面

震災関連記事のみの抜粋です

慈祥法嗣婚儀予算を承認

納骨堂は本山境内に三階建てで

高田派臨宗

三重県津市一身田町の真宗高田派本山専修寺（安藤光淵宗務総長）に十五日、第百臨時宗議会（柏原良信議長）が招集され、安藤内局から提出された「法嗣殿御婚儀特別会計歳入歳出予算案」(四千六百万円）など五議案を承認し、同日閉会した。今宗議会では、五月に執り行なわれる常磐井慈祥法嗣の婚儀に関する議案が中心となったほか、長年の懸案事項である納骨堂の建立について審議。この結果、同寺境内にある茶室・安楽庵西方の雑木林に地上三階建ての納骨堂を建立することを承認し、今年六月以降に設計に着手することが決まった。

会議の冒頭、安藤宗務総長が要旨次のように挨拶。

「この度の兵庫県南部地震については、多数の犠牲者と大被害を蒙った阪神地区の皆様に心からお見舞いを申し上げる。

多数の寺院が倒壊し、ひどい惨状だが、幸いにも高田派の寺院は神戸地区になく、被害報告は軽微だった。

本山ではこの大地震の被害者に対して、義援金を全末寺に呼びかけたところ、多方面から反響があり、予想以上の募金が集まった。一月末日で一千万円の大台を突破し、中日新聞社会事業団に寄託した。その後も募金が集まっているので、倒壊寺院の多い宗派にお送りしたいと思っている。

平成七年の新春を迎え、内事におかれてはまことにおめでたい発表があった。かねてより待望されていた法嗣殿の縁談がまとまり、宗門にとって何よりの慶事なので共にお慶びを申し上げたい。

ご婚儀については、諸条件を勘案して初夏を迎える時期とのご希望もあり、五月二十七日を選んだ。ご婚儀を執り行なうにあたり、高田派及び本山専修寺として、できる限りの対応をしなければならない。

一方、納骨堂建設計画については、先議会までの議員諸氏の強い要望があり、また、当内局のなすべき課題として前向きに検討を重ねてきたが、去る十二月、納骨堂建設委員会を開き、ひとまず方針が示されたので本議会に基本的計画案を提案することになった。

納骨堂建設については、かねてより早急な建設が必要とされてきたが成就せず、仮納骨堂を設置することで急場をしのいでいるが、タイムリミットとなり、あとがない。建設計画案についても種々検討されたが、どの案もまとまらなかった。その経過はご存じの通りだ。

簡単に申し上げると、当初、現納骨堂の老朽化を目前にして建て替えが計画された。しかし、境内の景観という面から地下方式の基本計画の作成がなされた。設計は東京の前川設計事務所に依頼し、地下三階、納骨規模は五万として基本設計がなされ、議会に提案された。しかし、資金計画の面において挫折し、規模を縮小して再提案がなされた。また、建設場所の問題が出され、現納骨堂の位置とするか、別の場所にするかという議論がなされ、時が経過した。

しかし、前々内局、前内局の努力も実らず、現今にいたっている。この経過を踏まえ、納骨堂建設委員会の答申を受けて、建設場所は山内、御廟裏、安楽庵の西の雑木林とし、建設規模は納骨壇数を約三万五千から四万とし、安楽庵周辺の景観にふさわしい建物、即ち両堂建物に似合う瓦葺き、地上三階程度の納骨堂とし、集会場や事務室などを別棟に設けるなど、敷地に似合う設計を依頼する案だ。設計業者の選択については、同委員会から当局に交渉を任され、常任委員会で討議し、交渉の任に当たってきた。

予算的には約十億円の資金が必要と認められるので、資金計画の作成に今後努力しなければならない。

建設の時期については、平成八年の伝灯奉告法会の円成の暁、早速に工事に入れるよう準備をしたい。五月の議会で基本設計の承認、十月の議会で本工事の計画を決定し、本設計に取り組み、来年の五月議会において建設予算の決定をみなければならない。その意味では、準備の最終段階であり、原案の承認がなされる必要がある。資金計画については検討し、それまでに提案させていただくつもりだ。いろいろな意見があるので、まとめていくことは大変だが、一つの決断であり、皆様の判断をいただきたい」

柏原良信議長［写真は省略］

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)